

## まんなかビジョン討論会（浜松会場）開催結果の概要

### 1. 開催日時・会場

- ・日時：平成 14 年 11 月 24 日（日）13：30～15：30
- ・会場：浜松市地域情報センター ホール

### 2. 出演者構成

#### ・コーディネーター

上野 征洋（静岡文化芸術大学教授）

#### ・発言者

大和田 清隆（浜松市在住）

金森 武夫（浜松市在住）

川合 康一（天竜市在住）

長谷 守保（浜松市在住）

見野 孝子（浜松市在住）

三宅 淳子（浜松市在住）

山内 秀彦（掛川市在住）

山口 祐子（浜松市在住）

#### ・行政側出演者

水谷 明大（中部地方整備局建政部都市調整官）

武田 一寧（中部運輸局企画振興部企画課長）

岩田 良明（静岡県土木部建設政策室長）

木村 忠幸（静岡県都市住宅部都市政策室長）

#### ・聴講者数

60 名（男性 53 名、女性 7 名）

#### ・会場風景



### 3. 主な発言要旨

#### [私の考える地域づくりに関して]

- ・縦割り型の取組から、横の繋がりを活かしていくことが重要。様々な取組から向かうべき方向は見えてきており、人々がどう繋がっていくべきかを考えていくことが重要である。
- ・右肩上がりの時代は終わり、身の丈のあった着実な地域づくりが重要と考えている。これからは、地域コミュニティづくりが必要であり、地域との対話・合意形成が必要となっている。地域の中でまちづくりの好きな人、自主的に活動する人をいかに集めていくのが大切である。
- ・市民、行政、事業者による協働のまちづくりを進めているが、協働のパートナーシップ型のまちづくりを支援することが重要と考えている。まちづくり活動のグループと自治会や町内会との協働によるまちづくりの難しさを感じている。
- ・介護の分野の仕事をしていて感じることは、まちの変化が大きいこと。住んでいるまちの変化に高齢者が戸惑っている。どう変わっていくのか分からない。外出してもどこにいるのか分からなくなるような状況もある。まちが変わっていく様子を人々に分かりやすく伝える、伝え方、見せ方に今後工夫が欲しい。
- ・個別でごちゃごちゃしたまちの景観に疑問をもつようになり、それからまちづくりにかかわるようになった。みんなが気付くこと、関心をもつことで横の繋がりをつくっていくことが重要と考えている。大人では気付かない子供の視点からまちづくりを考えていくことも必要と考えている。
- ・むらおこし事業で、どうやって活性化施設をつくるか取り組んできた。お金がないため財産区の資金活用を考え、全財産区に会員となってもらい、その利益を還元するという方向で進めた。しかし、地域の人口は減少し過疎化に歯止めが係らない。本当は、地域が活性化されることで地域に若者も子供も地域に残ってくれればいいのだからと思案している。そのためにも、コミュニティづくりは大変重要だと考えている。
- ・産業・金融の問題を考えた時、国家財政は予算が不足し、地価の下落に歯止めがかからないといった状況から経済の構造が根本的に変わったと考えている。子供の数が急激に減少しており、そのような中でどうするかといった観点からもまちづくりを考えていく必要がある。孫の世代にいったいどうなるか考えるべき。また、中国やインドの技術力の向上は目覚ましく、経済のスピードが急速に高まっている。グローバルな視点で取り組んでいくべきで、高速道路などの問題も考えていくべき。
- ・コミュニティづくりは重要だが、どうしても排他的になりやすい。ここに参加している人も感じていることだろうが、グループができると外側の人は参加しにくくなる。そこを後方から輪に入れるように支援することが役割だと考えている。もう一つは、子供たちの教育も重視している。子供たちにまちづくりを勉強してもらっており、まちにはいろいろな人が住んでいるということ、また、物事の決め方は民主的に進めて

いくべきということを学んでもらっており、今では様々なまちづくりについて提案できるようになってきている。

### **[まんなかビジョンへの期待]**

- ・まんなか地域の独自性や優位性をどういかしていくかが重要である。ビジョンの内容だが、名古屋中心、また、東京から見た中部圏といった印象を受ける。惑星と衛星といった関係ではなく、浜松を含め、一つ一つが個性を持った星座として考えていくべきではないか。少子化が問題として大きい、アウトカムとしても目標を示していくべきではないか。また、地域を見据えた担い手づくりの育成も重要と考えている。
- ・中部のまん中を支えてきた東海道、それを地域資源として再認識しまちづくりに活用していくことが重要である。また、地域づくりの活動を通して愛着を育み、まちの資源や自然環境を甦らせていくべき。アウトカム目標については、担い手づくり、人づくりも、目標の一つに掲げることが必要ではないかと考えている。
- ・在宅介護について、近所づきあいが希薄となってきたことから困難も多く、地域をいかに再生していくかが重要である。そのため、人がいきいきと生き安心して暮らせる地域づくりを進めていくべきである。人づくりをどう進めていくか。これまでの進め方を見直す時期に来ていると考えている。また、これからは、地産地消や循環型経済づくりが必要と考えている。
- ・国全体をどうすべきか国民全体のコンセンサスからこのようなビジョンも考えていかなければ、地域のことだけ考えても全体とちぐはぐになるのではないかと考えている。また、これからはコミュニケーションを基本とした価値の創造が必要ではないかと考えている。
- ・治山治水といわれるが本当にこのままで山を守っていけるのか。国土、森林をどうしたら守っていけるのか考えるべき。今、林業はまったくお金にならない。お金になる方策を考えるべきである。
- ・レーザー産業を浜松の中心にしていきたいし、それが可能と考えている。また、常に次が変わるものについて考えておかないとスピードについていけなくなる。労働力の問題についてももっと門戸を開いてもらいたい。この地域は大学も多く、これらを活かしてみなの力でナノテクノロジーを発展させていくべきである。
- ・ビジョンにある基本的なスタンスの方が多くの人に関心をもってもらえる重要なものではないか。これに対して中部地域を管轄する国土交通省中部地方整備局としての意思を示してもらいたい。また、今後は草の根まちづくりも国が支援を行うべきで、基本的なスタンスの中で位置づけておくべきではないか。

#### 4. 意向アンケート結果

会場にお越しいただいた聴講者やコーディネーター、発言者の方に対し「意向アンケート」を実施し、その場で、「中部の目指すべき方向（7つの目標）」について、静岡県西部地域と中部地域全体のそれぞれの観点から最も重要と思われる項目について尋ね結果を発表した。結果は以下の通りである。

- ・ 静岡県西部地域では、「VI.誰もが生き生きとして暮らせる豊かでゆったりとした生活環境の実現」（18票）、「I産業の国際競争力の強化」（16票）、「VII.東海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり」（14票）に回答が集まっている。
- ・ 一方、中部地域全体では、「IV.日本のまんなかである優位性を活かし、国土の東西・南北軸の再生や交流拠点整備による国内外交流の推進」（22票）が最も多く、「I産業の国際競争力の強化」（11票）、「V.中部の豊かな自然環境、歴史、文化などの保全・再生・創出活用」（9票）、「VII.東海地震をはじめとした災害に強い安全・安心な地域づくり」（8票）が続いている。

〔意向アンケート得票数〕

